



講演する小岩教授

地域の宝「亀ヶ岡文化」を学ぼう

NPO法人つがる縄文の会（川嶋大史理事長）主催による「JOMON亀ヶ岡文化フォーラム2017」が3月26日、松の館で開催され、市民ら約120人が世界文化遺産登録への機運を高めました。この日は、市教育委員会の佐野忠史学芸員が、田小屋野貝塚と亀ヶ岡遺跡におけるこれまでの発掘状況などを報告し、「近い将来に訪れる世界文化遺産登録に向け、今後は史跡のガイダンス施設の建設や地元でのボランティア活動などを積極的に推進する必要がある」と話していました。続いて弘前大学教育学部の小岩直人教授が「縄文時代の十三湖と屏風山」と題して講演。地形学の観点から、田小屋野貝塚と亀ヶ岡遺跡が栄えた時代の地形や十三湖の変遷などを紹介しました。

柏ミニバスが東北大会最優秀賞に輝く

柏ミニバススポーツ少年団が3月11日、12日に山形県総合運動公園総合体育館を主会場に開催された「第36回東北ブロックスポーツ少年団・ミニバスケットボール交歓大会」で最優秀賞を受賞しました。この大会は、東北各県で好成績を取めたチーム18チームが出場。6チームずつの3ブロックでそれぞれ最優秀を争う大会で、柏ミニバスは所属するブロックで東北の強豪を相手に3戦全勝を果たしました。

3月28日、市役所を訪れたメンバーは福島市長に喜びを報告。キャプテンの藤本錬さん（柏小6年）は「厳しい試合もあったけど、みんなの力で全勝できた。これを糧に、もっと上を目指してがんばります」と今後の抱負を述べました。



喜びを報告した柏ミニバスのメンバー



誓いの言葉を述べる柴田子供交通指導隊

交通安全のさらなる推進を誓う

「つがる市民交通事故防止総決起大会」が4月6日、松の館で行われ、市民ら約150人が交通事故防止への決意を新たにしました。

大会では、つがる地区交通安全協会の片山徳明会長が「家庭や地域での地道な活動が交通事故防止の抑止力になります。皆さんとともに明るく住みよいつがる市を作っていきましょう」とあいさつ。柴田子供交通指導隊は「優しい運転をお願いします」などと大きな声で呼び掛け、もりた保育園こども交通指導隊は交通安全を呼び掛ける体操を披露しました。

アトラクションでは、県警察音楽隊による吹奏楽やカラーガード隊のダイナミックな演技が会場を盛り上げました。

火災予防を呼び掛ける 春の火災予防運動

「消しましょう その火その時 その場所で」をスローガンに、春の火災予防運動（4月10日～16日）のパレード出動式が4月10日、松の館駐車場で開催され、消防団員64人、消防車両23台が参加しました。これは、火災予防の普及を図ろうと火災予防運動に合わせて毎年行われているもので、式では福島市長が「春先は空気の乾燥などにより、大規模火災が起こりがちです。危険な火災から市民を守るため、いっそうの精進をお願いします」とあいさつ。続いて、箱田鐵男消防団長から「火災や事故が絶対にないよう、今まで以上に巡回など力を入れてください」と訓示を受けた消防団員は、市内各地をパレードし、火災発生予防を呼び掛けました。



市内を巡り、火災予防を呼び掛ける消防団

東北各県の強豪が熱戦 北日本中学生バレーボール大会

4月16日、稲垣体育館を主会場として「北日本中学生バレーボール稲垣大会」が開催され、東北各県から集まった男女各12チームが熱戦を繰り広げました。

開会式では、稲垣中3年の佐藤壮太さんと山本萌瑛乃さんが「一人一人の心に残る大会にするため全力でプレーします」と力強く選手宣誓し大会がスタート。各チームが4会場に分かれ、日頃の練習の成果を競い合いました。

男子の部では、稲垣中が東北の強豪を相手に、決勝まで1セットも落とさない強さを見せ見事優勝。女子の部では、稲垣中が順当に勝ち進みましたが、決勝で堀口中（三沢市）に惜しくも敗れ、準優勝となりました。



強烈なスパイクを放つ稲垣中男子の岡本知也さん



大賞受賞作「潮流」と外崎さん

外崎さんが日中水墨画合同展で最高賞受賞

第34回日中水墨画合同展（3月10日～18日、東京都美術館）で、下車力町の外崎裕司さん（雅号 裕漣）が、最高賞である日中水墨大賞を受賞しました。247点の中から大賞に選ばれた作品「潮流」は、荒れ狂う日本海を題材に、思い切った抽象表現で描いたそうです。外崎さんは、第25回展で総務大臣賞、第31回展で内閣総理大臣賞を受賞。今回の大賞受賞については「初めての出展からもう18年。仲間の作品から学び、努力してきたことを認めていただきうれしい」と喜びを語りました。

また外崎さんは、若い世代に水墨画に親しんでもらおうと、母校である車力小、車力中に自身の画を寄贈。「子どもたちに墨一色の濃淡で描く魅力を感じてほしい」と話していました。

川崎兵次郎さん100歳おめでとう

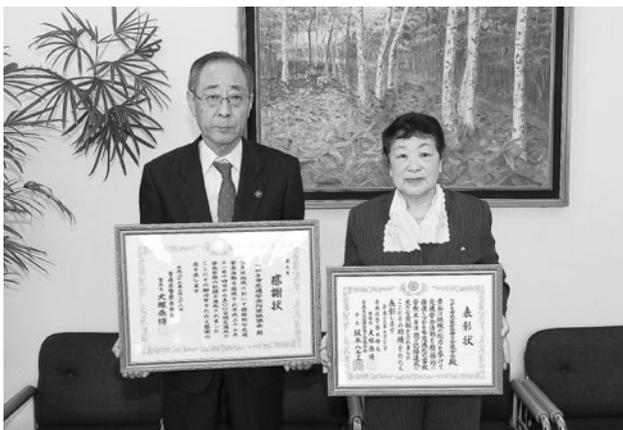
川崎兵次郎さん（木造末広）が4月15日、めでたく満100歳を迎えられました。

大正6年生まれの川崎さんは、満州で兵役を務め、帰国後は地元や関東方面で土木作業などに従事。孫3人、ひ孫3人、玄孫2人にも恵まれました。今でも足腰の強さは健在で、歩行器なしでも歩き、天気の良い日は外で草取りもするそうです。

4月18日、入居している有料老人ホーム「ラシュールメゾン いながき」で顕彰状の授与式が行われ、お祝いに駆け付けた長男や施設の入居者に祝福されていました。川崎さんは「みんなと仲良く会話しながら暮らしているのでここまで長生きできた。本当に感謝しています」とお礼を述べていました。



記念品を受け取る川崎さん。右は長男・俊正さん



市長を表敬訪問した花岡会長(右)

交通死亡事故ゼロ500日を達成

つがる市内における交通死亡事故ゼロの連続日数が、3月28日に500日に到達しました。これにより、市交通安全対策協議会（福島弘芳会長）と市交通安全母の会連合会（花岡トキ会長）が3月30日、地域の交通安全活動を積極的に推進したとして、県警察本部で表彰を受けました。当市におけるこれまでの交通死亡事故ゼロの最長記録は484日で、その記録を更新したものです。

4月5日、福島市長を表敬訪問した花岡会長は「45年間、地域の交通安全活動に携わってきましたが、大きな目標を達成できてうれしい」と喜びを報告。福島市長は「市民の交通安全のため、これからもご協力をお願いします」と話していました。